

2023年度 関東学生水球リーグ戦水球 【戦評】

会場：日本体育大学

【2023/6/25】

この試合のプレー集計

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------|
| 入替1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 明治大学 | 12 | <table border="1"> <tr><td>4</td><td>—</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>—</td><td>3</td></tr> <tr><td>2</td><td>—</td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>—</td><td>2</td></tr> </table> | 4 | — | 3 | 4 | — | 3 | 2 | — | 1 | 2 | — | 2 | 9 | 順天堂大学 |
| 4 | — | 3 | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | — | 3 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | — | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | — | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | PSO | | | | | | | | | | | | | | |
| 審判: | | 森林 和三 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 深谷 周平 | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|------|-----|------------|-----|-------|
| | 33 | SH数 | 28 | |
| 明治大学 | 14 | 速攻数 | 3 | 順天堂大学 |
| | 16 | ST・SB | 16 | |
| | 11 | SH・P誘発アシスト | 4 | |
| | 47% | GK阻止率 | 37% | |
| | 13 | EX反則数 | 7 | |

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

1部2部入替戦第1試合は、1部7位明治大と2部2位順天堂大の対戦。順大は昨年に続いての入替戦。昨年は1部7位の早大に圧倒されてのコールドゲーム負け。今シーズンはより成長中のチームだけに、どこまで明治大に迫れるか。

1P

先手は順大。明治ボールを⑧深澤が奪ってから攻撃で⑩成願が退水を誘発し、③栗田が先制点をマークした。しかし直後の明治はセンターで⑤越智が退水を誘発して同点。さらにGK⑬兼本のスチールから⑦渡邊がペナルティを誘発、再び⑤越智が決めて逆転。順大側のオフェンス反則に乗じて、センター⑦渡邊が決めて3点目。順大は人数をかけない攻撃で少ないチャンスを活かす展開で、明治側はやや余裕のある試合運び。ピリオド中盤に、明治のシュートミスから順大のカウンター攻撃。そこでのシュートこぼれ球を主将⑨榎淵が決めて順大2点目。さらにピリオド終盤には、⑧深澤がペナルティを誘発してこれも⑨榎淵が決めて順大3点目。明治大4-3順大と、ゲーム展開の割には順大が善戦した形で第1ピリオド終了。

2P

このピリオドも明治に先手を取られつつも、明治のミス確実に突いて③栗田が2得点。ピリオド終盤には⑤吉田が退水を誘発してタイムアウト。そこを狙い通りに主将⑨榎淵が決めて順大6点目。明治に突き放されそうになるたびにミスに乗じての加点で試合の行方を渡さない展開が続いた。明治はチャンスでのシュートがなかなか決まらず、肝心な局面でペナルティや退水を取られてなかなかリズムが上がってこない。ある意味、順大側の思惑通りの試合で推移し、明治8-6順大で前半を折り返した。順大としてはもう少しセンター④栗山を活かした展開に持ち込みたいところだが、明治側も⑥林らがよく防ぎ、明治ペースを維持しての後半戦に。

3P

明治⑤越智の6mSHを順大⑧深澤がブロック、それを起点に順大が積極的に仕掛けてエース⑨榎淵が退水を誘発して④栗山が決めて明治8-7順大と1点差に迫った。しかし試合巧者の明治大はGK⑬兼本のボールスチールから積極的に泳いだ⑥林がペナルティを奪い、⑤越智が決めて再び2点差に広げた。さらにピリオド終盤にはまたも⑥林が順大GK①滝藤からペナルティを奪い、⑤越智が決めて3点差で第3ピリオドを終了した。この明治大⑥林の泳ぎがこの試合の大きなポイントになった形で、明大優位で最終ピリオドへ。

4P

最初に得点したい順大だったが、ここでも明治⑥林が泳ぎ、4対3の速攻場面④狭間が決めて明治が4点差に広げて安全圏に。順大も必死に挽回を試み、積極的に前に出ること⑤吉田が退水をこのピリオドだけで5本も誘発したが、肝心のシュートが決まらず、⑥伊藤の1点に留まってしまった。その象徴が退水攻撃中の⑧深澤のパスミス。そこを明治に突かれてしまい、⑥林が右サイドからのシュートで12点目をマーク。これで勝負ありとなり、明治大12-9順天堂大で試合終了。明治の1部残留が決まった。明治は1部リーグの力を見せ、常に泳ぎで優位を保ちゲームの主導権を渡さない形で勝利した。速攻数でも明治14、順大3と圧倒しており、点差の割には力の差が現れていた。

敗れた順大だが、昨年に比べると大きく成長していることを入替戦で示すことができた。近い将来には1部リーグで活躍する姿を感じさせたのは胸を張れる敗戦といってもいいだろう。落ち着いたベンチワーク、特にここぞというタイムアウト請求はチームの一体感を高めており、さすがに元日本代表主将、現在は代表コーチを担う長沼監督の手腕を感じさせた一戦であった。